



▲地方創生やまちづくりについて意見交換をしている様子

この事業は、市長が本市の未来を担う若者をはじめ、女性や移住者が中心となっており、活動している団体、独創的・先駆的な取り組みを行っている団体などの活動状況の視察・懇談を行うもので、今回は「スポーツネットワークいわき」および賛同団体として（株）いわきスポーツクラブが参加しました。

懇談では、地域課題解決に向けたスポーツの活用やさまざまなスポーツ団体と企業等が連携したネットワーク構築の重要性など、スポーツに関する地方創生やまちづくりについて意見交換を行いました。



▲懇談後の集合写真



▲「スポーツネットワークいわき」代表 石河美奈さん(右)

市長と語ろう、いわきライフ



1/1(月)
初日の出
(新舞子)



▲多くの人が訪れた初日の出(新舞子)

いわきのお正月に関連するさまざまなイベントの様子です。なお、成人式に関しては、市ホームページにて各地で開催された様子を掲載しています。二次元コードよりぜひご覧ください。



1/1(月)
初日の出
(湯ノ岳)

街外れに建設された競輪場

平市街地は太平洋戦争で3度、空襲で焼かれました。平市を含め、空襲で被災した全国の都市にとって、復旧・復興を目指すための財源確保は大きな課題でした。

政府は日本の復興施策として、戦前から検討していた自転車競走に車券を付加する競輪事業を、連合国軍総司令部（GHQ）に届け出しました。しかし、日本を間接統治していたGHQは政府を主催者とすることに反対、地方ごとに行う性質のもの、と意見を付し承認しました。

こうして、「自転車競技法」が昭和23（1948）年8月に公布・施行され、第1条には、地方財政の健全化を図るため、指定市町村は自転車競走を行うことができる、と定められています。

写真が語る「いわき」の歴史



展開。昭和25年9月に通産省の認可を得て、昭和26年2月、開催にこぎつけました。

候補地としては、中塩、九品寺前、それに合併したばかりの旧飯野村大字谷川瀬の3か所が挙がりました。最終的に平市街地から離れ、農地の壊れが少ない谷川瀬が選ばれました。

その後、平市単独開催と5市共同開催の2本立てを経て、今は市民に開かれた競輪場として競輪のほか各種イベントも開かれています。

（いわき地域学會 小宅幸二）



■写真 周辺には田んぼが広がっていた平(現・いわき平) 競輪場 (昭和33(1958)年6月 小松公氏提供)



1/6(土)
出初式
(平中央公園)



1/5(金)
初市式
(卸売市場)



1/7(日)
成人式
(内郷地区)